

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2022年
12月17日
第143号



ギンバイカ (フトモモ科)

園内、生協カフェテリア前、タイワンモクゲンジの横で、パラパラとブルーベリーに似た果実を付けている低木が見られます。「マートル」とも呼ばれる、地中海沿岸原産の常緑低木です。葉と果実に芳香があり、香水の原料や入浴料などに用います。果肉は生食できますが、甘味が少なく渋みがあり、あまり美味しくありません。利用するには、完熟した実を乾燥させて、ソーセージや肉料理の風味づけしたり、リキュールにしたりします。また、葉には、収斂、殺菌作用を持つ化合物が含まれ、葉の浸出液や得られる精油を、清涼剤や、歯周病、歯肉炎の際の口腔内洗浄剤として用います。

初夏に、芳香のある白い梅花状の花が咲き、これが和名の由来になっています（銀梅花／ギンバイカ）。また、ギンコウバイ／銀香梅、ギンコウボク／銀香木という別名もあります。さらには、花が結婚式などの飾りに使われることから、「祝いの木」という別名もあります。

カギカスラ (アカネ科)

園内、温室前に鉢植えと、ひょうたん池の東側に植えてあります。本州は房総半島以南と、中国大陸南部の森林に分布する、常緑のつる性植物です。その名の通り、対生の葉が分枝する節にカギ状の突起（とげ）が伸び、二本が対になって出る節と一本だけ出る節が交互に現れ、他の植物に自身を引っかけて固定し、蔓（かずら）状に伸びていきます。日本薬局方では、このとげの部分、生薬のチョウトウコウ／釣藤鈎（または釣藤鈎）の原料として使用しますが、とげが伸びている「短い茎」の部分を含んでもよい事になっているため、現在の市場品の薬用部位は、事実上「とげが伸びている茎」でしょうか。中医学では「釣藤」という中薬名で、平肝熄風薬に分類され、肝風内動を鎮めるとして、頭痛、めまい、高血圧などに使用されます。漢方医学で釣藤鈎は、鎮静、鎮痙、平肝、瀉心を目的に、釣藤散、抑肝散、七物降下湯などの漢方薬に配合されます。